かいづか文化財だより

テンプス TEMPUS

2025年（令和７年）85号

貝塚寺内町まちや館（旧田中家住宅主屋）の外観

もくじ

貝塚寺内町まちや館（旧田中家住宅主屋）が
国の登録有形文化財になることが決まりました

貝塚市・泉南市・熊取町　日本遺産「葛城修験」
追加認定合同報告会を開催しました

／　「貝塚市文化財保存活用地域計画」を策定しました

／　小学校巡回展示「秀吉の紀州攻めと近木川沿いの城」

善兵衛が観た未来プロジェクト ～家族で楽しむ測量・地図・宇宙～

令和６年度文化の日のつどい
講演会 伊能忠敬と天文測量
座談会 伊能忠敬を巡る大阪の天文人脈～伊能忠敬から現代の測量へ～

／　伊能大図の実物大パネルを展示しました

古文書講座―市内にのこる身近な古文書―
「岸和田藩の年貢のしくみ２」

文化財講座・セミナー・展示

貝塚寺内町まちや館（旧田中家住宅主屋）が国の登録有形文化財になることが決まりました

令和６年11月22日（金）に開催された国の文化審議会（文部科学大臣または文化庁長官の求めに応じて、文化の振興等に関する重要事項を調査・審議し、意見を述べる組織です）において、本市の「貝塚寺内町まちや館（旧田中家住宅主屋）」を登録有形文化財（建造物）とするよう、文部科学大臣に答申が出されました。登録の事務手続きが完了すれば、本市では69件目の登録有形文化財（建造物）となります。

本号では、この貝塚寺内町まちや館（旧田中家住宅主屋）がどのような建物なのか、詳しく紹介します。なお記述が煩雑になるのを避けるため、登録有形文化財（建造物）を「登録文化財」と記します。

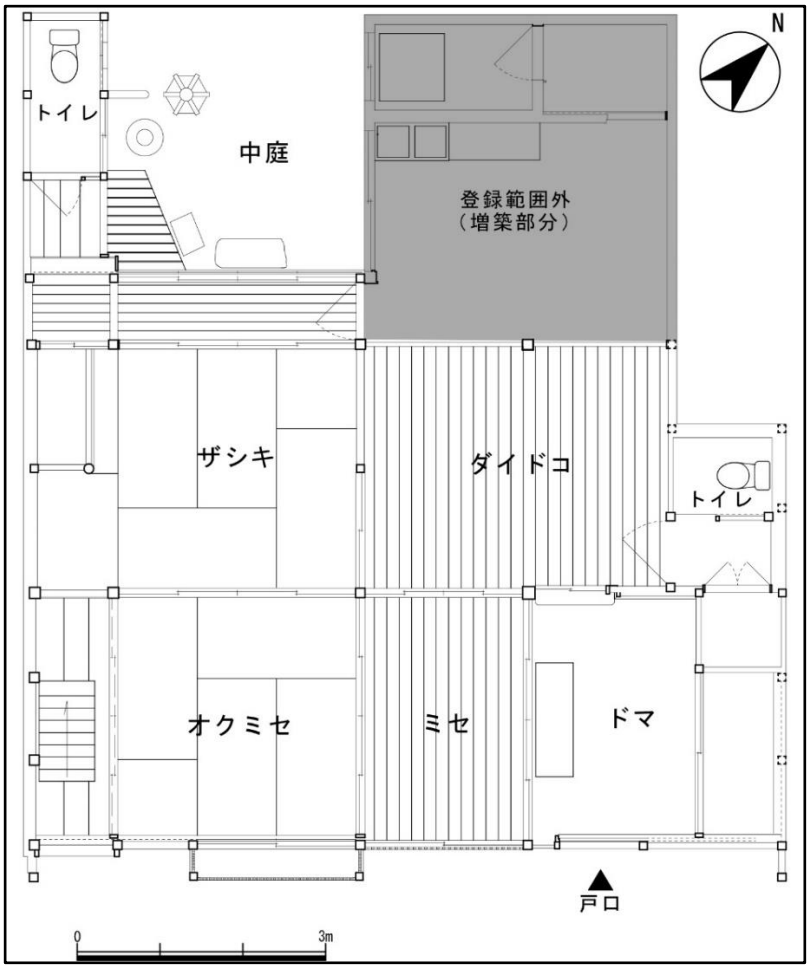
【登録文化財とは】

まず登録文化財について説明します。登録文化財は国の文化財保護制度のひとつで、建築後50年以上経ち、３つの基準（①地域に親しまれている、②時代の特色をよく表わしている、③再び造ることができない）のいずれかに該当する建造物を、文化財として登録するというものです。平成８（1996）年に導入された文化財保護制度であり、主に江戸時代から昭和の中頃までに建てられた、比較的新しい時代の建造物を保存するために運用されています。

【建物の名称について】

この建物は、本市が昭和59（1984）年に実施した貝塚寺内町町並調査で、専門家による建物調査の対象となった建物です。その成果をまとめた『貝塚寺内町－町並調査報告書－』（昭和62（1987）年刊行）では、当時の所有者の名前から「田中家住宅」としています。

しかし令和４年に所有者が代わったため、建物の名称も「貝塚寺内町まちや館（旧田中家住宅主屋）」（以下、「まちや館」と表記）と変わりました。この名称には、寺内町の貴重な町家建築として保存するとともに、広く公開・活用をしていきたいという、新しく所有者となった方の思いが込められています。



一階平面図

【建物の概要について】

では建物の説明に入ります。まちや館は、本市北町に所在しています。名称でわかるように、貝塚御坊願泉寺を中心とする貝塚寺内町の町家（まちなかに建つ店舗兼住居のこと）です。願泉寺の表門前を通る「御坊前通り」に面して建っています。明治35（1902）年に建てられました。

外観【表紙写真】は、一階の北側（建物に向かって右側）に戸口があり、南側のミセ・オクミセの前には平格子と出格子を備えています。また二階は白い漆喰塗りの壁に、虫籠窓（むしこまど）と呼ばれるスリット状の窓と、出格子のついた窓があります。貝塚寺内町の町家は、大正時代になると現代の建築のように二階が高くなりますが、まちや館はまだ二階が低く、江戸時代の町家の雰囲気をよく遺しています。

上質な意匠のザシキ

次に建物の内部ですが、一階は戸口のある北側がドマ、南側が部屋になっています。部屋は田の字状に四部屋あり、ドマに面したミセとダイドコが三畳（ダイドコは近年の改修で広くなっています）、奥のオクミセとザシキは四畳半です。ザシキには、床の間と床脇を備え、オクミセとの境には松原を表した透かし彫りの欄間（らんま）で飾っています。控え目ながら上質な雰囲気の座敷です。

オクミセにある箱階段

二階には、オクミセの押し入れの中にある箱階段（側面に引き出しをつけて箪笥としても使える階段）で上がります。二階には六部屋ありますが、オクミセとザシキの上の部屋が居室で、他の部屋は物置として使われていたようです。

【登録の意義について】

まちや館は、寺内町に遺る明治時代の町家建築の中で、正確な建築年代が判明している唯一の事例であり、今後の町家研究の指標のひとつになるものと考えられます。

また、まちや館が面する御坊前通りは、願泉寺、正福寺、尊光寺、満泉寺や、登録文化財の並河家住宅などの歴史的な建造物が立ち並んでいます。まちや館は貝塚寺内町の歴史的な景観を構成する重要な町家建築のひとつであり、今回登録文化財として保存と活用が図られることには大きな意義があります。貝塚寺内町を訪問される際には、ぜひまちや館も見ていただきたいと思います。

貝塚市・泉南市・熊取町　日本遺産「葛城修験（かつらぎしゅげん）」追加認定合同報告会を開催しました

令和６年10月26日（土）に、本市役所６階福祉センター多目的ホールで３市町合同の日本遺産「葛城修験」追加認定合同報告会を開催しました。

報告会では、葛城修験神道　鉄火山道場宮司（ぐうじ）である膾谷健眞（なますやけんしん）氏より「日本遺産『葛城修験』追加認定の意義」と題した記念講演をいただきました。膾谷氏は、①葛城修験こそ日本の山岳修験が修験道たる形として成立した修験道はじまりの地であること、②蕎原とちのき谷は、これまで明らかでなかった第九宿「嶺の龍王」の修行の場であったこと、③谷の入り口に立つ「聖護院御用拝所（しょうごいんごようはいしょ）佛忿山不動明王（ぶっそうざんふどうみょうおう）」と刻まれた道標は、聖護院最後の宮門跡（みやもんぜき／皇族の門跡）である雄仁法親王（ゆうにんほっしんのう）が葛城に入峰（にゅうぶ）された際に建てられたと考えられること、④熊取町の「降井（ふるい）家住宅」は聖護院門跡の葛城入峰休憩所として重要であること、⑤金熊寺（きんゆうじ）と信達（しんだち）神社は古くは「金熊大権現」であり、権現思想の始まりと考えていることなど、今回の追加認定の重要性を説明いただきました。次に３市町の担当者から、追加認定を受けた文化財と、関係する文化財について写真を投影しながら紹介し、最後に会場からいただいた葛城修験に関する質問について、膾谷氏から詳しくお答えいただきました。

会場からの質問に答える膾谷氏

報告会には77名のご参加をいただき、大変充実した報告会となりました。

小学校巡回展示「秀吉の紀州攻めと近木川沿いの城」

毎年恒例となった小学校巡回展示は、今年度９月５日(木)から11月20日（水）まで、二色学園を含む全11校で、「秀吉の紀州攻めと近木川沿いの城」を開催しました。

「秀吉の紀州攻め」は天正13（1585）年３月から４月に起こった、羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）と彼に対立していた根来寺（ねごろじ）や雑賀(さいか)の人びと、紀南の湯河（ゆかわ）氏・玉置（たまき）氏を含め紀伊国(紀州ともいう、今の和歌山県)の諸勢力との戦いをいいます。市内を流れる近木川沿いに暮らしていた人びとと、根来寺や雑賀の人びとが、その最前線となる近木川沿いの城に立てこもり、秀吉軍と戦いました。

巡回展示では、北側から攻め込む秀吉軍に対し、千石堀城や高井城に立てこもる根来寺などの人びとの位置関係、土地の高さや川が削る谷のようすがわかるようにジオラマで再現しました。

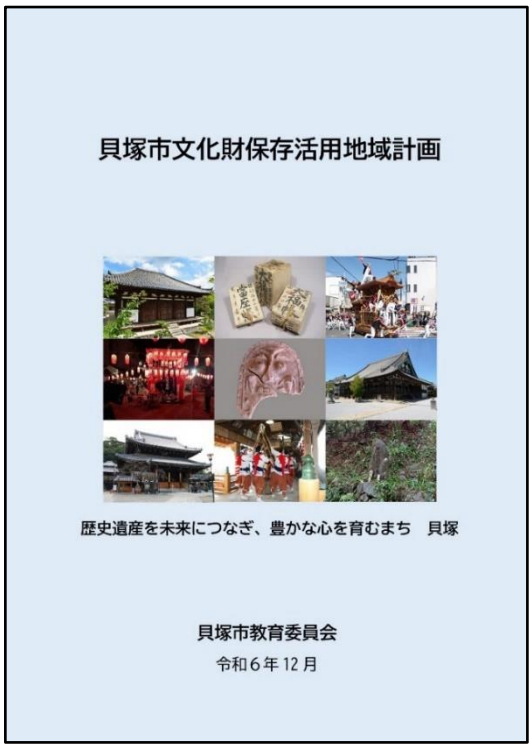
「貝塚市文化財保存活用地域計画」を策定しました

本市では、令和４年度から令和６年度までの３年をかけて、文化財の保存と活用に関するマスタープランである「貝塚市文化財保存活用地域計画」（以下、「地域計画」とします）の策定に取り組んできました。その進捗状況は本誌でも紹介してきましたが、予定どおり計画の策定を終え、令和６年12月20日（金）に文化庁長官の認定を受けることができましたので、みなさまに報告いたします。計画の策定にあたっては、文化財リストの作成、所有者アンケートの実施、パブリックコメントと市民説明会の開催など、多くの方々にご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。本市ホームページには計画の「本編」とこれを要約した「概要版」を掲載していますので、ぜひご覧ください（ＱＲコードから）。

今回策定した地域計画は、本市の歴史・文化の結晶である文化財を守り、後世に伝えること、文化財を通じて人々の心が豊かになるようなまちづくりを推進し、「歴史遺産を未来につなぎ、豊かな心を育むまち　貝塚」を基本理念としました。この理念実現のため、①歴史遺産の保存、②歴史遺産の保存・活用を担う人づくり、③歴史遺産の保存・活用を担う仕組みづくり、④歴史遺産を活かしたまちづくり、という４つの方向性に基づいて、これまでの文化財保護の取組みを振り返り、課題を整理した上で、今後の方針と具体的な取組みを定めています。計画期間は令和７年度から17年度までの11年間です。

いよいよ４月から計画期間が始まります。市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

「貝塚市文化財保存活用地域計画」ホームページ



「貝塚市文化財保存活用地域計画」本編表紙

また、同様に丸山古墳で陣を張る秀吉軍と積善寺城に立てこもる根来寺などの人びととの位置関係も表現しました。「根来出城図」（江戸時代に作られた近木川沿いの城の位置関係がわかる絵図／岸和田市教育委員会所蔵）の写真も展示しました。

多くの子どもたちに、かつての戦場や城の場所と、現在の目印となる建物や鉄道などがどこにあるのかを見比べながら、実感してもらう機会となりました。

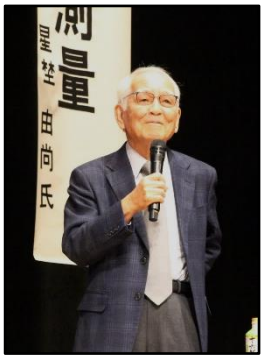
小・中学生がともに展示の解説を聞くようす（二色学園）

善兵衛が観た未来プロジェクト ～家族で楽しむ測量・地図・宇宙～

令和６年度文化の日のつどい

講演会 伊能忠敬と天文測量

座談会 伊能忠敬を巡る大阪の天文人脈～伊能忠敬から現代の測量へ～



熱く語られる星埜氏

令和６年11月３日（日）コスモスシアター中ホールで開催した「文化の日のつどい」において、伊能忠敬が日本地図を作成する際に、貝塚の偉人である岩橋善兵衛が作った望遠鏡を使用したことにちなみ、「伊能忠敬～歩いて日本地図をつくった男」（『別冊太陽』日本のこころ）の著者である元国土地理院院長の星埜由尚氏に「伊能忠敬と天文測量」と題し、講演いただきました。伊能忠敬と岩橋善兵衛が交わる歴史的背景、伊能忠敬の測量の軌跡、伊能忠敬が善兵衛の望遠鏡を使用し天文測量を行うことによって経緯度を求めていたことなど、貴重な資料をもとにお話しいただきました。測量の大変さや苦労、善兵衛の望遠鏡の活躍する様子などがわかり非常に学びの多いものとなりました。

星埜氏を交えての座談会

また、講演会の後、千葉県香取市にある伊能忠敬記念館の平野功館長、茨城県つくばみらい市にある間宮林蔵記念館の木村明夫館長、また善兵衛ランド井出博館長、国土地理院近畿地方測量部田中宏明部長にもご登壇いただき座談会を実施しました。各館の紹介や各偉人の関係性などそれぞれの館長にお話しいただき、田中部長からはドローンによる測量など現代の測量のお話をしていただきました。各館長らによる丁寧な説明により、現在に至る地図の発展や様々な観点から測量について学ぶことができる有意義な座談会となりました。

伊能大図の実物大パネルを展示しました

令和６年11月１日（金）から24日（日）まで、千葉県香取市にある伊能忠敬記念館から、伊能大図の実物大パネルを借用し、善兵衛ランドや郷土資料展示室などで展示しました。善兵衛ランドに立ち寄られたカナダから来られたという来館者のお二人は、富士山をはじめとして色彩豊かに描かれていることに感動し、「日本地図というよりも日本画の美しさを表現している点は、詳細な地図描写だけでなく鑑賞に値するすばらしいものだ」と驚きの声をあげました。

山岳や海の部分の彩色が
鮮やかな伊能大図

今を遡ること220年前、文化２（1805）年８月13日に第５次伊能忠敬測量隊が泉州の地にやってきました。一行はこの日谷川浦（現、岬町）に上陸、15日に尾崎、16日に岸和田へ到着しました。城下の春木屋吉蔵宅に泊り、天体観測を行ったことが記録されています。その後紀州街道を北上し大坂へと向かいました。この時伊能隊は望遠鏡を製作した岩橋善兵衛のいた脇浜新町を通っていますが、立ち寄ったとする記事は遺されていません。

古文書講座 －市内にのこる身近な古文書－

◆岸和田藩の年貢のしくみ２

講座に聞き入る参加者のみなさん

令和６年10月２日・９日・16日・23日・30日の水曜日と、10月４日・11日・18日・25日、11月１日の金曜日の２グループに分けて、「岸和田藩の年貢のしくみ２」と題し、古文書講座を開催しました。

前回６月から７月に開催した講座の第２弾として、年貢を年内に納めるための村人たちの努力と、彼らを支えた村の代表、庄屋に対する感謝について書かれている古文書を読み解いていきました。

まず、借用証文を２通解読しました。それらの証文からは年貢を納めるために借銀（しゃくぎん）する庄屋の姿や、100名を超える村人たちが連名で借用する「村借（むらがり）」の様子がわかりました。さらに、村に尽力した庄屋に褒美（ほうび）をくれるように、村人たちが岸和田藩主にお願いする嘆願書も読み進めました。その結果、藩主から庄屋の奮闘を後世に伝えるようにと送られた称誉状（しょうよじょう）も解読しました。

これらの古文書から、江戸時代の年貢のしくみが、村人全体の連帯責任で納める形を取っていること、とりわけ庄屋は責任が重く、年貢を納められない村人に代わって立て替える経済力も求められていたことが、はっきりわかりました。

今後も引き続き、地元貝塚市内に遺る古文書をひも解き、江戸時代の人びとの暮らしにスポットを当てていきます。ふるってご参加ください。

古文書講座75（通算355回～359回）開催のお知らせ

テーマ　「江戸時代の村境をめぐる争い」

日　時　第１回　２月26日、第２回　３月５日、第３回　３月12日、
　　第４回　３月19日、第５回　３月26日のいずれも水曜日
　　午後１時15分～３時45分

会　場　貝塚市民図書館２階視聴覚室

定　員　50人（先着順）

資料代　200円

申　込　希望する班・住所・氏名・電話番号を、電話・ファックス・Ｅメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

申込・問合せ先　〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館２階）
社会教育課 文化財保存活用室 郷土資料室
ＴＥＬ 072（433）7205 ／ ＦＡＸ 072（433）7053
Ｅメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

文化財講座・セミナー・展示

令和７年

◆２月

24日（月・振替休日）午後２時～４時　参加費無料・申込不要
貝塚市文化財保存活用地域計画　認定記念シンポジウム
「これからの歴史まちづくり」　福祉センター６階多目的ホール

26日（水）午後１時15分～３時45分
古文書講座75「江戸時代の村境をめぐる争い」①　図書館２階視聴覚室

◆３月

２日（日）午後１時30分～３時　申込受付終了
第132回かいづか歴史文化セミナー 水間寺連続講座②
講演会「秀吉の紀州攻めと貝塚・水間寺」　水間門前町 桜のテラス２階

５日・12日・19日・26日の各水曜日　午後１時15分～３時45分
古文書講座75「江戸時代の村境をめぐる争い」②～⑤ 図書館２階視聴覚室

８日（土）午後１時30分～３時30分　参加費無料・要申込
第133回かいづか歴史文化セミナー 水間寺連続講座③
見学会「水間寺の境内をめぐろう」
集合・解散 水間門前町 桜のテラス２階

郷土資料展示室特別展
「わが町の歴史遺産－貝塚寺内町・水間寺・葛城修験－」

新たに作成した「貝塚市文化財保存活用地域計画」の内容と、貝塚寺内町・水間寺・葛城修験の文化財を紹介します。　３月15日（土）から

休室日：火曜日、3月20日（木）・31日（月）

20日（木・祝）午前10時～午後３時　申込不要
出店 第２回ふれあいまつり
泉大津市立池上曽根弥生学習館（泉大津市）

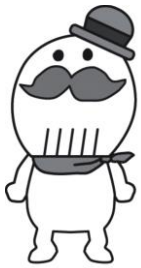
23日（日）午前10時～午後３時　申込不要
出店 第14回弥生フェスティバル ワークショップ
大阪府立弥生文化博物館（和泉市）

４月20日（日）まで

かいづか文化財だよりテンプス85号

KAIZUKA

令和7年2月21日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585　貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126　Fax(072)433-7053
Email:bunkazai@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。